ネパール旅日記　：9 回目のネパール訪問

長谷川 隆

期間：2023 年 9 月 27 日～10 月 31 日

Gokyo-Ri 5,360m への途中 5,000m 付近の眺め。ゴーキョ 4,750m、ドゥードゥポカリ（池）、左手に氷河。

旅の概要

・ゴーキョ方面トレッキング：14 日間。ルクラから 7 日間でゴーキョへ。5,000m から無事帰還。
・安価な授業料の学校 Samata School を訪問。全国に 80 校、東京にも設立意向。
・Sewa の会の活動で、障害のある児童生徒への教育支援のため学校訪問。
・スラム街で、取り残された小学 1-3 年生にボランティアで教える放課後スクール訪問。
・日本語学校 3 校訪問：日本への留学、就労を目指す学生たちと会う。
・音楽家と交流：竹笛バンスリ、シタール、サランギの奏者。民族楽器博物館創設者。
・ラジオネパールで、そして大学で講演にて、「40 年前と今のネパール」について話す。
　　フルート演奏もする。
・40 年前からの友人，音楽家など 13 人の方々にご自宅等でごちそうになる。感謝、感謝。
・40 年前からの友人の家にダサインの祭りに呼んでいただいた。親戚 50 人が集った。

ボードナート近くの Samata School のお陰で、1 週間ほどホテルに住まわせていただいた。
航空便：エアインディア 往復 12.5 万円程　座席にスクリーン画面あるが映画など見れず。
　9 月 27 日成田 11:15 発　ニューデリー経由　カトマンズ 21:15 頃着　Fuji Hotel に 22:30 着
　10 月 30 日カトマンズ 15:40 発　ニューデリー経由　成田 31 日 9：45 着

9 月 27 日: 飛行機で同じ列の女性は新婚で、千葉幕張の新郎に会いに来て 1 か月住んだが、日本食が合わず、ずっとネパール料理を作ったりして食事していたと言う。

9 月 28 日:
8:00 過ぎ：Sudarshan さん
　さっそく Sudarshan さんがホテルに来てくれた。高校卒業（Plus2 試験終了）した一人娘は、父親の希望（日本留学）通りと行かず、オーストラリアの大学に法律を学びに留学希望という。Sudarshan さんは、日本のように豊かな先進国でなぜ路上生活者がいるのか、研究しに日本で半年住みたい、と言っていた。ネパールの方が反対にあまりいない、インドと違い。
カナダの誰かが、日本人のように皆勤勉に働いて路上生活に陥るのは政治の失敗だ、と言っていたそうだ。

9:30 Samata School
　Sudarshan さんのバイクに乗り、ボードナート（地元ではボーダと言う）近くの Samata School の Uttam Sanjel 理事長訪問。学校の先生方の歓送迎会が行われていた。窓のない暑苦しいホールにたくさんの生徒。やたら長いスピーチ。生徒たちが踊りの準備で民族衣装が華やか。

夜のボードナート

16:00 インドラジャートラ　カトマンズの Durbar Square にて
　シタール奏者の Satendra さんが誘ってくれ、生まれて初めて生神様クマリの巡行するインドラジャートラを見物させてもらった。4 時にラニポカリ前の Durwar High School 前で待ち合わせ、それから Satendra さん家族が昔住んでいたと言うアッサン地区を歩き、Durbar Square に向かった。アッサン地区はものすごい人。住んでいたあたりは日がろくに当たらなかったそう

で、それでパタンに大きな家を建てている。大勢の人が集まり警察の鼓笛隊のような演奏があり、政府要人が出てきて、そしてクマリの巡行となった。ボジプールの山の村にいては見られなかった祭りだ。

9 月 29 日

9:30　Samata School

Sudarshan さんのバイクに先導してもらい、タクシーで荷物を運び Samata School を訪問した。Samata School が 15 年ほど前にできた時、周りはほとんど田園だったそうで、それからどんどん家や店が立ったと言う。Samata School は、ネパール全国の郡に 80 あり、毎月 1 ドル 140 円程で学べるように寄付金などで運営している。「Education for all」がスローガン。インド、スリランカ、バングラデッシュ、ミャンマー、マレーシアにも 1 校づつあり、今度東京にも設立の考え。

私も生徒に壇上からネパール語で挨拶した

ボードナート校には幼稚園から大学まであり、4,000 人の生徒がいるという。節約のために校舎は柱、壁など最大限、竹で作られている。今は竹は高騰したが。教室は狭く、窓がなく、薄暗い中でギュウギュウ詰め、裸電球が一つだけの薄暗い部屋だった。英語で全科目教えられ、ネパール語の授業もある。なんと大学生が小中学生の先生をやっていた。大学生の授業は朝 6 時から 9 時、小学生の授業は 9 時からなので、同じ Samata School 内でそれが可能ということだ。先生の資格は大丈夫なのかと疑問に思う。学校には保健室にあたる部屋はあったが、面倒を見る人がいなく閉鎖していた。授業中に体調の悪くなった生徒らが教務室に来て苦しそうに横になっていた。病人の面倒は原則家族で自らやらないといけないということのようだ。

Samata School の教務室で先生方と午後 4 時半頃話していると、カージャといって、おやつに暖かいラーメンが半杯ほど皆に配られた。おいしいが栄養の心配をしてしまう。先生たち 4－5 人はまだ若いが誰も結婚していないと言う。それはカトマンズでは親子 4－5 人の家族が暮らしていくには 5 万ルピー（約 5.5 万円）程必要だが、給料が低く難しいから、とか。一般の公立学校の先生で 3 万円、私立で 2 万円と聞くが、共稼ぎでぎりぎりというところか。

Hotel Stupa （学校から徒歩 4 分、ボードナートから 8 分）

Samata School が東京校開設の予定があり、私が支援したいということ訪問したら、私のために近くのホテルに無料で住まわせてくれることになった。一泊 1800 円程の Hotel Stupa。ホテルの女主人はオカルドゥンガ出身のシェルパ族。3 年ほど前に主人が車の事故で亡くなり、小中学生の二人の子供を私立学校に通わせながらホテル経営に励んでいる。彼女はなんと 7 人姉妹で、ボードナート近くにレストランなどやっている姉らがいる。姪の Furba さん 20 歳もときどき手伝いに来ていた。二十歳くらいの女性二人が住み込みで働き、月給 1 万円で働いていた。ゴルカ出身の女性ら二人が女主人と、給料が安いとか言って喧嘩して出て行ったが、何日かして他にいい仕事がないのか戻ってきた。

ホテルの料金：一泊 1500Rps（1Rupee =1.1 円），チヤ（ミルク紅茶）50Rps、食事 250/180Rps（チキンあり/なし）、ダルバートタルカリ定食：700/500/300 マトン/チキン/肉なし

13:30 Safala さんのスラム街の放課後スクール訪問

女子大学生がふたりボランティア（毎日！）で、踊りやしつけ、お話しをしていた。部屋の教育資材も手作りで去年より見た目には充実してきた。

帰り、ボードナートのホテルまでタクシー600Rps（670 円くらい）

16:00 頃　Samata School に寄ると、生徒がぞくぞくと帰って行った。校門？で先生が列になって帰る生徒と挨拶をしていた。毎日全員とするのだろうか？こちらはクラブ活動などはない。

9 月 30 日（土）

Panchkar のラブグリーンネパールに関係する方を訪問

2022 年 12 月東京でのネパールビジネス交流会で知り合ったネパール人女性スリジャナさんの夫の実家の方を訪問した。バイクによるタクシーでホテルからチャベルに行き（最低 200Rps）、バスに乗ってバネパに行く。バス代 800Rps。バスは道路が渋滞で 50 分ほど遅れたが、Panchkar からガネシュラルさんが迎えにバスで来てくれた。彼はバネパで大きな魚を買い、家に着いたら揚げて料理してくれると言った。バネパからまたバスに乗りドゥリケルの山を越えて山の斜面の村パンチカールの家に着いた。ボーダのホテルから片道 2 時間ほどもバスなどでかかった。2015 年の地震で家は壊れ、近くに大きな 3－4 階建ての家を 1,000 万円ほどで建てて雑貨店兼

茶屋を開いていた。家の再建に国の補助はわずかだったそうだ。村の若者たちが集まってお茶など飲み談笑していた。私にお昼ご飯を魚料理などでご馳走してくれ、ビールもいただいた。彼の両親はともに 13,4 歳で結婚したそうだ。店の前の小さな寺院やラブグリーンネパールの建物を見せてくれた。前は日本人が農業開発で 7 年ほど住んでいたが、亡くなり今は幼稚園にしていると言う。それから畑や下の段々田圃を見せてもらう。生育が不十分なところが多く栽培方法の改善余地はまだまだありそうだ。70 年に一度花が咲く竹、その花が咲いているから見に行こうと言われた。

私は、フルートを取り出し、ネパールの有名な曲や日本の曲など演奏し、村の人々ともいろいろ話をした。どこに行ってもだが、こちらでも日本に行った子供の話がでる。

夕方になり、近所の若者が週末が終わりカトマンズの職場の軍隊にバイクで帰るのに、バイクの後ろに乗せて行ってもらうことになった。怖いし長い時間だが嬉しくもあり有難かった。家の人に来週も来なさい、お祭りの時にも必ず来てくれと何度も何度も言われ、断るのに困った。これぞおもてなしの国ネパール、と言う感じだ。

10 月 1 日

SEWA の会として今まで女子教育支援をしていたが、教育無料化になり、障害者教育支援に切り替えるため、障害者のいる学校 2 校を訪問した。

訪問者：Anjana さん、長谷川隆

Sewa の会として、30 年の教育支援実績があり、日本の支援者は多い時で 4-50 人いた。集められた支援金は現在 500 万円程あり、ネパールの定期預金に入れておけば金利 11％で運用できるので、金利分で毎年支援することも可能である。

10:00 Namna 校（Patan の中心地）

・この学校自体は公立、総生徒数（一般主体）500 人。Nursery から 12 クラスまで。

・障害者は 10 クラスまで。11 クラスから外の高校で学ぶ。

・障害者（Physical/blind）51 人。うち Blind 38（男：30、女：8）、Physical（足等）13。

車いす利用者：4

・障害者のホステル（寄宿舎）滞在者：18 人（男：13、女：5）

ホステル（寄宿舎）生徒は住食フリー。

・クラス別障害者数

12 クラス-1 人, 11-0 人, 10-3 人, 9-9 人(physical 2, visual 7), 8-7 人(physical 4, visual 3)

・公立学校として Blind には授業料フリー

・学校から SEWA への要望：

１）１年生（幼稚園？）からの支援（早くから始めて高校生になりまで勉強が続くように。高校生の１１クラスに進めれば後は自力でやれるため）

２）男女にかかわらず支給（男女で分ける理由は障害者にはない）

３）年間制服費用等の支給：4,500RPs = 約 5,000 円

衣服代 3,500RPs、靴 1,000 RPs

Laboratory Secondary School

・Kirtipur の国立トリブーバン大学の敷地横にある半公立半民間の立派な施設の学校

・障害者は 19 人。大体ホステルに住む（地方から多く）。目の不自由な子が多い。

・障害者の子供がいることで、夫婦が離婚し、母親だけでカトマンズに子供を連れて出てきて子供はホステルに、母親はひとり学校の近くに住んで働いている場合もあるという。

盲の明るく一生懸命な先生

生徒の作品

・６クラスより上は少ない。上の学年まで継続して学ぶのは経済的な問題以外もあるのか難しいようだ。

幼稚園 9 人、1 年生 1、2 年生 2、3 年生 1、4 年生 0、5 年生 2、6 年生 3、8 年生 1

・韓国の団体から年間 120,000RPs（約 13 万円）が支給されている。

(約 2,200 円／月 x 12 か月 x 5 人)

・学校から SEWA への要望：

１）小さい子でも大きい子でも Financial が大変な子に学費を支給してほしい。

2）親の経済的な問題により上の学年に進むのをあきらめる子をなんとか助けてほしい。上の学年ほど生徒数が少なくなっている。

10 月 2 日
8:00　Akshala 日本語学校を訪問
Stupa hotel の女主人の姪が日本語を学び日本で働きたいということで、Akshala に連れて行った。創設者の Giri さんは 2 年ほど前に学校開設し夫婦で運営し、すでに 80 人の生徒がいて日本に特定技能などで送り出している。ちょうどこの日、オンラインで特定技能の面接が 4 人にあり聞かせていただいた。日本の寿司チェーンの会社が外国人を採用すべく、調理の経験、日本語での会話力を確認していた。ひとりはカタールにいながらオンライン面接していた。ネパール人は髭を生やすことがかっこいいと思っているようだが寿司職人は清潔感を出すため髭を剃ってもらわないといけないが剃れるか、という質問があった。
私は教室で 20 分ほど生徒に日本の話をしたり、質問を受けた。そして日本の歌をフルートで吹いて、その歌詞をネパール語で説明した。そして日本人のこの歌の気持ちは分かるか、など聞いたりしたが、案外わかるような感じの反応だった。
Akshala も日本に支店を置こうかとも計画しているそうで、頼もしい限りだ。

13:30 Gate College Y. Yayoi さん訪問
Gate College で Yayoi さんは日本語を教えていられる。**8 月に四天王寺大学の学生に 3 日間ネパール関係のオンライン講義があって、共に講師をした Yayoi さんと私が知り合い、彼女から私に** Gate College で講演してみませんかと提案あり、その打ち合わせに訪問した。私は、ネパールでの経験を、「ネパールの 40 年前と今」という題で話すこととした。
彼女は子供さん 4 人とネパールに住み、大学などで日本語などを教えていられる。彼女は小中学生時代に父親の仕事でサウジアラビアにいて、それで大学でアラビア語を専攻された。一般企業で働きたくなく、インドのマザーテレサの活動に興味をもっていたこともあり、インドで職を得ることとなった。インド行きの航空券を買うときに連絡を取った日本の旅行会社でネパール人の担当者と出会い、一目見た途端に電撃が走り結婚する人と感じたという。そして偶然インドで再会することとなり、そのまま結婚となったという。驚きの話だ。そして東京で 4 人の子供の世話をしていて、子供の世話（特に学校、幼稚園とのやり取り）だけで日々の生活がいっぱいになっていると危機を感じ、打開策として大胆にも夫を日本に置き、子供 4 人を連れてネパールに来ることを決断したという。
ネパールでは学校からの親への依頼ごとが少なく、母親は縛られることが少ない点が、いいそうだ。多分日本が過度に細かく多すぎるのではないだろうか。それで先生の過剰残業となる問題となっているのではないだろうか。ネパールでは、子供を大学に連れて来て仕事をしていても特に問題とされないそうだ（公私混同を許容だが）。それで日本ではできなかった、大学で教えるという仕事もできているという。ただ子供たちを、週に 1 日しかない休日

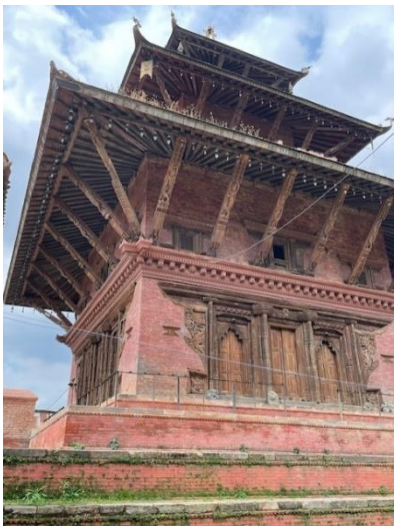
に日本人補習校に連れて行かないといけないで休みはなかなか親子ともども取れない状況だとのことで大変だ。

10 月 3 日
10:00 ネパール民族楽器博物館（現ネパール音楽博物館）
　場所は、Tripureshowar Mahadev Mandir 寺院の中

　Tripureshowar Mahadev Mandir 寺院は結構草がぼうぼうに生えていたり、寺院の建物の屋根にも草が生えたり、建物は傷んだままで、せっかくの素晴らしい建築の保存がされていなくもったいない状況だった。楽器博物館の陳列や保管、管理人の費用は何も国の補助がないそうだ。二人採用しているが皆 Ram さんの仲間がお金を出し合って給与を支給し、施設と楽器を管理しているという。
　一人の英国人女性が以前にこちらでこの博物館の楽器の紹介を英語で文書に書いてくれていたそうだ。また韓国の NPO が村々の音楽を収集し CD に収めて置いてあった。博物館に興味を持って来てくれるのは外国人で、ネパール人はあまり来てくれないという。それでももう一度来た時には、寺院の階段のところに高校生の大勢のグループが来ていて Ram さんの話を聞いていた。

10 月 4 日
12:00 ネパール民族楽器博物館（現ネパール音楽博物館）
　ネパールのいくつもの伝統楽器の演奏者が集い各々の演奏をしあった。弦楽器のサランギ、草笛、モンゴル高原の音のような響きの楽器、竹笛バンスリ、そして Ram さんはシャンカと呼ばれる法螺貝。私もフルートでネパールの歌を演奏した。参加者のひとりがラジオネパールの方で、終わりに声をかけられ、ラジオ番組でインタビューしたい、40 年前の協力隊時代から今まで 9 回もネパールに来ている日本人の話を聞きたい、とのことだった。驚きの展開。

ネパール音楽博物館）



Tripureshowar Mahadev Mandir 寺院

館長の Ram さんは、ネパールの有名な民謡等の歌を歌集にして残したいということで五線譜に電子的に記録したものを作っていた。そのコピーを一部いただけたが、10 万円程あれば 1,000 部印刷できて学校などに配布できるのだがお金がないのでできない、と言っていた。私がクラウドファンディングで集められないかと思うところである。
ちなみにネパールでは五線譜は使われず、プロの音楽家で世界に演奏に行く人たちも五線譜は読めない。楽譜がなくてシタールなどは演奏されてきた。

14:00 Shrestha 光明さんが Hotel Stupa に来ていろいろ話してくれた。
ボードナート近くで幼稚園を開いているという。日本に長くいて日本語が堪能だ。

＊タクシーの運ちゃんの話。
彼は息子と娘がいて、娘は 12 年生を終え高卒、オーストラリアに留学に行くので、毎年 300 万円から 250 万は掛かるから頑張って送らないと、と言う。日本だとバイトしてもそれで学費を払えないらしい、働いても給料がとても低い、オーストラリアの方がいいと言う。
何人かのタクシーの運転手の話を聞いたが、100 万円くらいの中古車をローンで買って、月

に 2 日くらいの休みだけで一生懸命仕事に励んでいた。子供の教育が一番の仕事のがんばり甲斐だ。ガソリン代は日本より 1 割くらい高い中で、タクシー乗車賃は日本の半分以下であり、稼ぎは少ないだろうと思うが。またバイクの二人乗りによるタクシーがどんどん増えていて、運賃が高い車のタクシー運転手は大変だ。

10 月 5 日

10:30 Gate College

11 時から 30 人ほどの学生に「ネパール　40 年前と今」という内容で 40 年前の協力隊時代のボジプール郡の山村の生活と最近のネパールの変化について話した。またフルートで日本の歌、ネパールの歌を演奏した。Gate College はスイスが設立したホテル業務などの Hospitality など学ぶ大学で、4 年間の学びの途中に外国でのインターンシップが 1 年間あるそうだ。卒業するとスイスなどで仕事に就けるそうだ。少し羨ましくなる。また日本もそうした長期的な人材育成投資をなぜもっと行わないかと思う。30 人ほどの学生が聴講してくれたが、後ろの方で男子グループがおしゃべりをしているのが気になったが、Yayoi さんが、いつもこうだから気にしないで、とのこと。私のような外部講師を毎月のように招いて無償で話してもらっているという。講演後に学内の素敵な食堂で、日本に留学し大学で教えていたという方と食事ができた。ネパール舞踊研究家の岡本有子さんのお嬢さん、ハワさんも聞きに来てくれていた。

16:30 JLECC 日本語教育文化センター（パタン、設立 23 年）

日本の日本語学校に留学する生徒たちの各地域の入管に提出する申請書類の作成準備で忙しい時に訪問させていただいた。Aruna 校長に新しい分校も見せてもらい、お話をうかがった。韓国のハングル語の教室もやらないかというお誘いもあるという。最近は留学より、手早く働ける特定技能志望者が増えているという。特定技能志望ではあまり日本語を一生懸命高いレベルまで学ぼうとしないところもあって少し残念そうだった。

夕方、おたふく、という日本料理店で、国立トリブーバン大学で日本語を教える坂本みどり先生と共に Aruna 校長に食事に招いていただいた。

10 月 6 日

Hachiko 日本語＆文化センター（バネパ）

創設者の Ashis Lama さんが仕事が多忙で、やや体調不良のなか、学校で待っていてくれた。バスで片道 2 時間かけバネパのハチ公日本語学校に行き、日本行きを目指す生徒たちに日本とネパールの歌をフルートで吹いて聞いてもらった。精霊流し、津軽海峡冬景色、など。万雷の拍手？でもネパールの歌の方が盛り上がるようで。

少し前に大阪の五十代の奥様が日本語を教えに 1 ヶ月いたそうだ。私が日本の着物姿の女性の来年のカレンダーをあげたらとても喜んでくれた♪　人口 1 万人程度のバネパだけで日本語学校が 35 もあるというから驚きだ。なおネパール全体で 800 校もある。日本の日本語学校から大学に進学するより特定技能ですぐに働くことをめざす生徒が急激に増えているそうだ。

バネパの若者は、日本や韓国に働きに行くが、アラブには行かないそうだ。ある女性は高校の英語教師（月給 2 万円）をやめて、ハチ公で 1 年日本語を学び 10 月から大阪城近くの日本語学校に入るという。今年から入った人気の先生は、ネパールの高校卒業後、名古屋の日本語学校に入り、卒業後、名古屋の専門学校で 2 年ビジネスを学び、寿司も出す焼肉チェーン店で働いたとのこと。桑名まで毎日通ったことも。バイト？のすき家では、1 人で店を任されてちゃんとできたという。電子的注文などが進み一人でできるのだという。彼は学生の時に結婚して子供もできたが日本に連れて来なかった。日本滞在 6 年経って、家族と住み両親の世話ができるようにネパールのバネパに戻ったそうだ。バネパに 3 人家族で部屋を借りて住み、両親が村から毎日のように片道 40 分バスと歩きでパンチカールから来てくれるそうだ。

20：00　トーランさん宅訪問

40 年前に協力隊時代に柑橘類の苗木生産者で大地主だった方のカトマンズの家を訪問した。

夕食をいただくが私にだけビールを出してくれトーランさんは肉も食べず酒も飲まない。ヨガをするトーランさんが孫にいろいろなポーズを教えてさせて夜の 10 時近くまでにぎやかに過ごした。

10 月 7 日（土）

11：00　40 年前の協力隊時代の柑橘栽培指導のカウンターパート訪問

Padam Prasad Shrestha さんの家を訪問した。彼は 76 歳。次男がフロリダに奨学金で留学し経理の仕事をしていて、孫ができたので、夫婦で渡米し半年の予定で滞在していた。孫の世話をしながらアメリカで一緒に住んでいてカトマンズの家には不在だった。それでイスラエルで 15 年働いていた娘さんが私を近所に散歩に連れて行ってくれた。昼食後、部屋でヨガのポーズなどする。私はフルートでネパールと日本の歌を演奏した。山間部で水力発電ダムの仕事をする長男も週末で帰っていて初めて会った。工学部の大学院を出ているという。今、ネパールで水力発電は唯一の大型輸出品であり、花形の仕事だ。俺はネパールを捨てはしない、と言っていた。

18:00 ウッタム・カルキさんの家を訪問

40 年前の協力隊時代の下宿先の家族は 25 年ほども前に山のボジプール郡の家と土地を売ってカトマンズに出て来て大きな家を建てている。ウッタム君は私が協力隊時代は 7-8 歳で小さかったがもう立派なビジネスマンである。高級タバコ会社で重責を担い、別の新興の会社で重役で、抗がん剤医薬品などの製造販売を行うべくチトワンに工場など建設中という。そんな重責の傍ら毎晩 6 時から 8 時までジムでトレーニングに励んでいるという。

私が訪問した時は、ウッタム君の母親が 75 位の若さで亡くなって半年の喪に服していて、私にはお酒や肉など出してくれても自分ではどちらも口にしなかった。とても申し訳ない。

息子さんはオーストラリアの大学で IT を学んでいるという。もうすぐあるダサインの 10 日ほどの休みに一週間 UAE のアブダビ・ドバイに父親、夫婦と娘の 4 人で旅行に行くという。随分豊かになったものだ。

10 月 8 日

13:00 ラジオネパール局

ラジオのインタビューを 40 分ほど受けた。なぜ 9 回もネパールに来るほどネパールが好きなのか、ネパールの農業を発展させるにはどうしたらいいと考えるか、など聞かれ、つたないネパール語で答えさせていただいた。またフルートでネパールの昔から人気の歌、レッサンフィ

リリなど演奏した。インタビューも含め担当者と 2 時間くらい話したが、インタビューが終わってから、今晩うちに来てくれ、泊って行ってくれ、と何度も何度も言うので断るのに困った。さらに実家のあるシンズリ村にも来てくれと言われて。

10 月 9 日
10:30 Gate College
一目見て雷に打たれたような衝撃を受け、結婚相手だと確信したという Y.Yayoi さんという不思議な人物に興味をもち話を聞きに行った。占星術をやっていて、昔女性はみな巫女だった、と言ったり、庭のテーブルで蝶が舞ってくるとちょうど夫の話をしたから来たのだ、と言って驚かせたりであった。今日のラッキーナンバーは？と思って日本で電車に乗っていると広告のある数字が大きく見えたとか。

午後はまた Samata School を訪問した。

10 月 10 日
8:00 Hotel Stupa にトレッキング会社の社長のラクパさんとガイドをやるヌルブさんがザックなど持って最終打ち合わせに来てくれた。
ラクパさんがバイクでバクタプールまで送ってくれた。感謝。

10:00 Alisa Das さんの実家を訪問
　何年か前にも 3 人でバクタプールの家を訪問している。Alisa さんのご両親はラメチャップ郡の山の村から 15 歳くらいで結婚してカトマンズに出て来て楽器店などの店をやって来ている。4 人の子が皆外国に行き、末っ子の Alisa さんはネパールの医学部に合格しできれば医学の道に進みたかったが、お金が掛かるので奨学金で行ける日本を選んだのだ。そして朝日新聞の配達の仕事で毎朝深夜から 5 時間弱働き日本語学校、さらに IT の大学で学んだ（日本の医学

部進学には日本語の壁があった)。そして結婚し、カナダで IT の仕事もしながら大学院で IT をさらに学び卒業した。頑張り屋だ。

ご両親が私を快く迎えてくれ、お昼をご馳走してくれたり Alisa さんのキリスト教式結婚式の写真を見せてくれたりした。20 年ほど前にカースト制のあるヒンズー教を捨て、キリスト教徒に一家でなったという。ヒンズー教は本当によくないと言っていた。ヒンズー教を嫌ったのはカーストの低い種族でいろいろ虐げられたのかもしれないと思った。

親父さんは政府？の楽団に入りクラリネットなど吹いていたそうだ。しかし楽譜など読めず特に習ったわけでもないというが、とても上手に演奏しているビデオを見せてくれて驚いた。そして私がフルートを演奏してから、フルートを吹くための手の置き方を教えると、数分後には上手に吹き始めてとても驚いた。

この家も周りの家々もみな 4-5 階建てで屋上がある大きな家だ。部屋や食堂も造りが大きい。ネパールでは全般に新しい家々は造りが大きい。日本の家々がとても小さく思う。なぜだろう。ネパールは貧しい、と言いながらも家々は大きくゆとりがあり、生活もゆったりして祭りの休暇を長く１か月もまとめてとったりしてのんびり家族親戚で和やかな時を過ごす。そういう点は日本から見るととても羨ましい。そうはいっても若い人は貧しいのであまりに多くの人が外国に稼ぎに、留学に行くのだが。

ヒマラヤトレッキング：　ゴーキョ方面

10 月 11 日

深夜 1 時にタクシーでホテル出発。ボーダのホテルからタメールまで夜間料金で 1,000 ルピー（1,100 円)。1:30 発予定がガイドのヌルブさんが友人と酒を飲んでいて遅れ、トヨタハイエースも到着が少し遅れ 1:43 発。他に外国人が 5－6 人同乗。山を越えラメチャップ空港に早朝 5 時前に到着。空港前の庶民的なホテルでもう一度寝なおす。

Samata school

Ramechap 空港付近

10 時過ぎに、歩いて Samata School を訪問した。小さなビルのお店の下の階を借りて授業をやっているようだ。突然の訪問も快く受け入れてくれた。授業を少し見て、私はまた生徒に集まってもらい、ネパールの歌などフルートで演奏した。校長先生の部屋でいろいろ話を聞く。先生方はみな若い女性でサリー姿。昼からの College での授業前に子供たちの授業をし、給料は 6,000 円くらいでやっているようだ。それは大学生のアルバイトのような形だが、授業を受ける生徒には大事な学校だ。生徒から授業料を最低限しか取らないのでスポンサーからの寄付金がちゃんと届かないと運営は大変だ。

夕方、咳が出続けるので、散歩がてら町を歩き薬局を探し薬を買った。茶屋に寄るといろいろ話しかけられ、日本に働きにゆくにはどうしたらいいとか聞かれる。小さい子供が数人いて無理だろうが。若い主人が 1100 円で街をバイクで案内してくれると言うので、乗せてもらった。高い金を払ったのにあっという間に終わらされた。何も見ないよりはよかったが。

10 月 12 日 Trekking 初日

9:00 ラメチャップ空港⇒ルクラ 2840m→Chaurikharka2,530→Ghat2,492→Phakding 2,610

この年からハイシーズンはルクラ行き飛行便はカトマンズからでなく、カトマンズから車で 4－6 時間かかるラメチャップからの出発になったと言う。カトマンズの空港混雑を避けるためか。外国人トレッカーには大変なことだ。

朝 7 時のルクラ行きの飛行機に乗るために空港に 6 時にガイドと行った。4 日間も天候のせいで飛行機が飛ばなかったので大勢の外国人トレッカーが押し寄せている。今日こそは天気もよさそうで飛ぶだろう、との期待が大きい。押し合い圧し合い列に並んでいて、パスポートを求められ、私はカトマンズに置いてきていたので、もう乗れないのかと思った。しかしガイドがカトマンズのラクパさんに連絡して、去年のトレッキング時のパスポートの PDF をだいぶ苦労した末に携帯の Messenger で送ってくれた。それでも最後の便で空いていれば乗れるかというぎりぎりの状況で、9 時の最終便に乗れた時にはそれはそれは生き延びた気がした。

待っている間、日本人のトレッカーに会い、話をした。二人のグループは 15 日間でスリーパ

スを目指すと言って、三つの 5000m 超の峠越えに挑戦するという。別の 1 人は Amadablem 6,856m の無酸素登頂を 26 日間くらいで目指すそうだ。「つらいのはガイドはいても言葉が通じないので、話し相手がいないことだ」、という。みな大変な猛者だ。

ラメチャップ空港出発前

ルクラ空港 2840m　滑走路が斜面だ

ルクラ 2840m→Chaurikharka2,530→Ghat2,492→Phakding 2,610

ルクラから歩き始める。昨晩は夕方雨で石畳が濡れたが朝は晴れている。ラメチャップで大勢の外国人トレッカーが 4 日間待たされていたせいか道は大変な人通りだ。飛行機代などでお金がかかるのか、エベレスト方面はネパール人トレッカーはいない。そしてアメリカに住むインド人の 35 人のグループがいた。のどかな風景を眺めながら標高は 200m 以上下りて、Phakding に着いた。ホテルのトイレが一か所壊れていて不便。

10 月 13 日　Trekking 2 日目

7:34 Phakding 2,610 発→Chumoa→Monjo→Jorsale 2,804→ 16:15 Namche3,440m

Phakding から下って川を渡るときれいな立派なホテルが多く建てられていた。たくさんの外国人にどんどん追い抜かれてしまうが、ゆっくり行く。かみさんと 20 年前頃に歩いた道なんだなと思う。結構な時間がかかる道だった。荷物を担ぐツノの巨大な牛、ザッキョ、そしてやや小型の馬、カッチャルが長い列で通っていった。その度に待たされ休めた。

途中、ガイドの妻の姉の宿で

Jorsale を過ぎて高い橋を渡り、長い上り坂を登ってやっと Namche Bazaar に着いた。登り坂も 2,3 列縦隊ほどの混みようだった。アジア人では中国人、マレーシア人と声を掛け合った。ナムチェに入ったところで、荷運びの馬が 10 頭ほど休み、女たちがダーラで洗いものをしていた。若い男達がバシバシとバレーボールの試合をやっていて、なかなかすごい。ガイドの Nurb さんが奥さんに出会った Hotel に宿をとった。奥さんはそちらでコックとして 3 年間働いていたそうで、学校には行っていないと言う。昼はそのお姉さんの貧しい茶屋でお茶とチャンをいただいた。その旦那さんもガイドで留守にしていた。

Namche の宿、マウントビューホテルは、6 年前にできた立派な宿。高いところにあるホテルから見下ろすと 20 年前に比べて随分ホテルが増えている。ホテルの主人は以前、2 年間日本でホテルの仕事をしていたそうだ。食堂には日本人が描いて背負って持って来てくれたヒマラヤの絵が３つ飾ってあった。

女主人が旦那はヒマラヤの Expedition でヒマラヤ登頂に行っていると言う。娘は学校を終えホテルの手伝いを兄 2 人と一緒にしている。娘は将来、女ガイドになると母は言う。もう一人の娘は優秀でオーストラリアの大学院に留学していて大きな写真が飾ってあった。

Wi-Fi 使用料が 500 ルピーも。トイレはファグディンはひとつ壊れていてよくなかったが、ナムチェは立派。

ナムチェのホテルまで日本人に会わなかったが、このナムチェのホテルに日本の十数人のグループがいくつも予約しているそうだ。

ザッキョが荷を運ぶ

ナムチェへの急登前の橋を背に Nurb さん

ナムチェ入口でくつろぐカッチャル

10 月 14 日　Trekking 3 日目

8:15 Namche 3,440m→ Shangboche 3,758→ 12:00 頃 Khumjung 3,790m

ナムチェの朝は雲。すこし日が差していた。20 年前は、朝早くエベレストを見に登り天気がよく景色が良かった。途中のジャンボチェは一度、日本人の宮原さんが観光促進のため空港とエベレストビューホテルを作ったところ。その後、空港は閉鎖されてしまった。40 年ほど前か、協力隊員のひとりがここで高山病になり命を落としたという。標高は富士山より低いが。

Khumjung 村に入ると寺と学校があった

ホテルからヒマラヤが一望できる

クムジュンに 12:15 に着いた。村人はみんなチベットから来たシェルパ族で、ステゥーパが立ち、エベレスト初登頂のヒラリーの名を冠した学校があった。クムジュン村からアマダブラムが見えた。アマダブラムは、先日ラメチャップ空港で会った日本人が単独酸素ボンベなしで登頂をめざすと言っていたところ。

クムジュンのホテルもナムチェのホテルの親戚が経営している。ホテルはキッチンも、ダイニングもとても広く立派だ。ネパール人が日本に来て部屋が狭くて悲しくなるのもわかる。ホテルの主人は 33 回もヒマラヤ登頂したという。野口健と三回エベレストなど登頂し、とても好かれていると言う。野口健がクムジュン村の公立学校に通学カバンや服など寄付していて、このホテルにも二回泊まったそうでホテルの家族と一緒の写真が飾ってあった。野口健は最近ヒマラヤで胸に水がたまり肺炎になって入院していたという。この村の公立学校は 10 年生まで。歩いて 15 分のクンデに 12 年生の学校がある。

もう 3 人の子供も大きく、ここにいる娘は高校生くらい。上の娘はカトマンズで四年生大学に通い、毎月 3 万ルピー、約 3.4 万円は必要だという。このホテルはできて 1 年も経っていなく、主人が現金一括で払ったと言う。長男はラマ僧に自ら進んでなってタンボチェあたりの寺院に住み、結婚はしないそうだ。次男はサッカー、バレーボール、柔道をやる。日本人が 1 年前から学校で柔道を教えているそうだ。学校はダサイン祭から 30 日以上休み。公立だが英語を媒体として教えている。クムジュン村の若者は、村の先生にはならず、ガイドになるか外国に行くそうで、先生は皆外から来ると言う。外国に沢山若者が学びに働きに行くが先進国ばかりで中東には行かない、アメリカが多く、そしてオーストラリア、日本という。

こんな立派なホテルに今日は私 1 人宿泊。奥さんは、ルクラあたりから嫁に来た。7 歳で母を亡くし父も 16 年前に亡くした。旦那の両親は父 87 歳、母 81 歳でカトマンズに兄弟家族と住む。電気は 35 年前に村に来た。ラジオは昔聞いたが、今は家族みな携帯で YouTube など見る。テレビも見ないようだ。

広い食堂：夫の稼ぎで大きなホテル建てたが他に客なし

キッチン：ネパール語で話が聞けた。子供も手伝い。

クムジュン村　サッカーをしている

村のラマ教寺院

村でヤクが石囲いのなかで飼われている。村の標高が 3700m あるので冬、雪が 60cm くらい積もり、することもなくなるという。外から来た先生はよく寒いと言って村を出てゆく。作物はジャガイモ、キャベツなど。女主人は、今歯が痛いという。隣のクンデ村に病院があるが特別な手術は出来ない。緊急な病状の時は 2,000 ドル以上掛けてヘリコプターでカトマンズの病院に運ぶ。娘さんがメガネを掛けているが、カトマンズで検査をして買った。村でもナムチェでも買えないようだ。出産は 25 年くらい前から病院で産むようになった。隣村のクンデでなく、女主人はカトマンズの病院で産んだという。この村はヒマラヤガイド等で豊かなのだと思った。クンデ病院では緊急時にカトマンズにヘリで運ばないといけないそうだ。

ヤクが飼われている

結婚 21 年の女主人はルクラの学校で 10 年生まで学び、クムジュン村の旦那は 5 年生まで学んだ。旦那はガイドの仕事のため英語は自分で身につけた。シェルパの風習では人が死ぬと山に運び燃やす。シェルパは、ダサインは祝うがティハールは祝わないそうだ。

私が新しいネパール国歌をフルートで吹くと、女主人が音色に合わせて歌ってくれた。

10 月 15 日　Trekking 4 日目

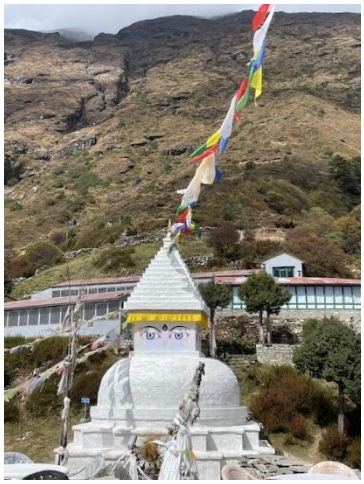
7:30 Khumjung 3,790m→ Sanasa → 10:04 Mong La 3,973m

朝、女主人に別れを告げ、下り、ナムチェから来た道と合流してゆったり登っていく。モンラ近くで、イギリスに留学後帰国し、ルクラを拠点に 6 年間ガイドをしながらネパール Tourism をプロモートしようとしているネパール人に会う。

前方右手はエベレスト BC 方面。ポルツェ村が斜面に見える。

山の斜面に野生のヤギの群れがいた。

Amadablem 6,856m の雄姿



モンラはアマダムラムの展望台だ

宿でフルートを吹くと、オーストラリアのカップルが「Thank you for Music」と言ってくれた。カップルの女性は以前、弘前で 2 年間英語を教えていたと言う。男性はオーストラリアの西北の暑いところに住むが、第二次世界大戦の時に、日本軍が軍事基地を築こうとしたと言う。二人でトルコで仕事をしていて、米英の大金持ちの家の管理の仕事をしていたそうだ。同じ宿に泊まった台湾系のニュージーランド人は森林関係の仕事をしていると言う。

宿の女主人が夜寝る時に、寒いだろうと湯たんぽを貸してくれて驚いた。

10 月 16 日　Trekking 5 日目

7:25 Mong La 3,973m→ 8:17 Portse Thanga 3,680 → 11:17 Dole 4,110m

数日前から咳が夜中も昼間も続き熱もあるので夜あまり寝られなかった。それであと 3 日上に行く予定はやめて下に戻ろうと思った。しかし高山病ではないのでヘリで保険は使えないとのこと。Wi-Fi が通じず。

10 月 17 日　Trekking 6 日目

8:17 Dole 4,110m→ Luza4,360 でお茶 → 12:15 Macchermo 4,470m

朝、ガイドに「下るか？」と聞かれたが、出発前に体調良いので上に登ることとした。朝、雪がぱらついた。

マッチェルモで最初に入ったホテルは欧米人の客でごった返していた。それで裏の宿にホテルの子が連れて行ってくれた。そちらは泊り客は 2 組だけだった。3 人の小さい子が顔を見せた。

10 月 18 日　Trekking 7 日目

7:33 Macchermo 4,470m→ 11:37 Gokyo 4,750m

一番上のホテルのあるゴーキョに着いた。大きな池とヒマラヤのコンテラスト。

WiFi 1hr 350 Rps

ゴーキョのホテルの女主人は子供が５人いるが、わたしが歩いて 4 日間かけて来たクムジュン村で子供を産み、5 歳からクムジュン村の幼稚園入り 10 年生までクムジュン村の学校に学ばせているそうだ。クムジュン村の学校の生徒は皆、その後カトマンズの学校に行ってしまうそ

うだ。子供と過ごせる秋の休暇は貴重だ。ゴーキョは外国人トレッカーで溢れている。ほとんどの客がゴーキョで 2 泊してくれるので助かると言う。標高 5,000m 近くあり、樹木が生えないので燃料はヤクの糞だけで、拾いに行くのが大変。それが冬の間、雪に埋もれるといよいよ大変だと言う。

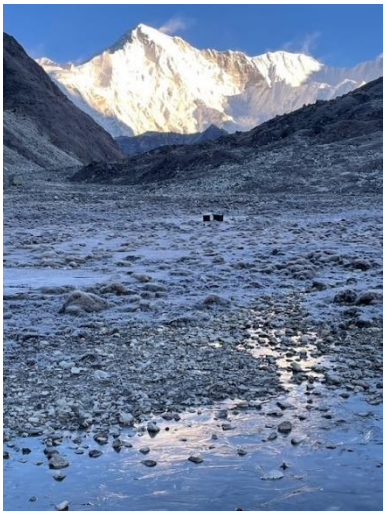
10 月 19 日　Trekking 8 日目

6:15 Gokyo 4,750m → Gokyo-Ri への途中 5,000m 付近 → 9:00 過ぎ Gokyo 4,750m

11:00 頃、Gokyo 4,750m → 14:15 頃 Macchermo 4,470m

朝早々に出発。少し池を上から見下ろすつもりでガイドを連れず登る。咳、風邪、疲れで Gokyo-Ri　5,360m への登頂はせずに 5,000m 付近で景色も十分満喫し下山した。氷河も見えた。ドゥードゥポカリ（乳池）が青く、朝日が差し、ヒマラヤの白峰との景色は美しい。大勢の欧米人のグループが Gokyo-Ri めざして登って行った。さすがに 5,000m 付近で息が切れ、早く登れない。

Gokyo 4,750m ホテル前のドゥードゥポカリ（乳池） 朝 6 時過ぎ



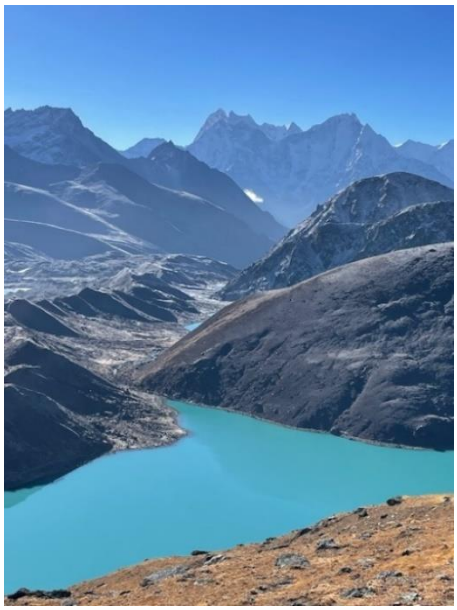
Cho Oyu 8,188m

右はレンジョパス方面

ドゥードゥポカリ（池）を見下ろす

朝日が差す

氷河



標高 4,750m の Gokyo にこんなにかわいい赤ちゃんが。親子三代が住んでいて感動する。

11:00 頃、Gokyo のホテルに別れを告げて下り始める。すぐに日本人グループに会う。ガイドも日本人でネパール語がペラペラで元気いっぱいだ。今日のゆるい下りは風が強く往生した、寒くて。

Gokyo から下り出発

14:15 頃、Macchermo 着。トゥクパ（焼きそば）を食す。18 時半の夕食まで寝る。
18 時半　夕食、ダルバート・タルカリ・アチャール。WiFi が 1,000 ルピーと高い。

10 月 20 日　Trekking 9 日目

7:45 Macchermo 4,470m → 9:00 Luza 4,360m → 10:33 Lhaborma 4,330m → 11:30 Dhole 4,110m → Tongba 3,950m → 14:45 Phortse Thanga 3,680m

先日泊まり、一度下山しようと思った宿、ドーレで一休み。お陰様で、上に 4 日間行けて本当によかった。14:45 Phortse Thanga の宿にやっと着いた。たくさんヒマラヤが見えた。大分疲れが溜まっている。

Macchermo の朝

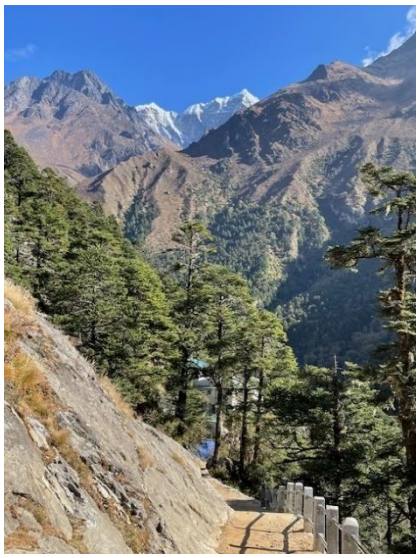
登りで泊ったDhole 4,110mのホテルで休憩、ランチを摂る。若い女の子は宿の娘ではなく近所の子で、ダサインの休暇で学校の下宿先から村に帰ってきていると言う。ただダサインやティハールはヒンズー教徒の祭りで、仏教徒であるシェルパ等は祝わない。支配階級であるブラーマン、チェットリ族がヒンズー教徒であり、10年ほど前までヒンズー教は国の宗教とされていた。そのヒンズー教の祭りの時期が国の休暇になっている。

下った川べりにあるPhortse Thangaの宿には外国人トレッカーが大勢いた。食堂ではいろいろな外国人グループのガイドたちがストーブを囲んで談笑していた。「本当はダサインの祭りの時期なので自分の故郷の村に帰りたいが、ガイドの仕事のため残念ながら帰れない」、と言っていた。
宿の女女将が、「カトマンズにいた時はお金がどんどん出て行ったが、このトレッキング街道の宿にいると（お客が泊りにどんどん来て）、毎日お金が入ってくる」、と言っていた。

10月21日　Trekking 10日目

8:22 Phortse Thanga 3,680m → 10:44 Mon La 3,973m → サナサ（Khumjungとの分岐）→ 13:08 TashiDelek/Kyanjuma 3,555m 14:05発 → 16:20 Namche Bazar 3,440m

朝8:22出発、川べりの宿から急登2時間20分、標高差300mの急斜面を登り再度4000m近くのMon Laに着く。茶屋でアマダブラムを眼前に眺めて休む。そして1時間弱下って、エベレストBC方面の道との分岐に来た。その少し先のホテルで辛ラーメンでお昼。ガイドのヌルブさんはフライドライス、いつも彼のがうまそうに見える。ヌルブさんはもうNamcheが近いとお酒のチャンも。どこの宿も赤ちゃんや子供がいて和ませてくれる。昼寝を少しして、また2時間歩いてナムチェの宿に16:20に着く。中国人のトレッキンググループも歩いていた。中国人が、日本に行き富士山も見た、日本はこんなに小さい、と言っていたのが印象的。



Phortse Thanga 3,680m の川べりの宿を出発

向かいの Phortse の村

Amadablem 6,856m

泊った Mon La 3,973m の宿を見上げる

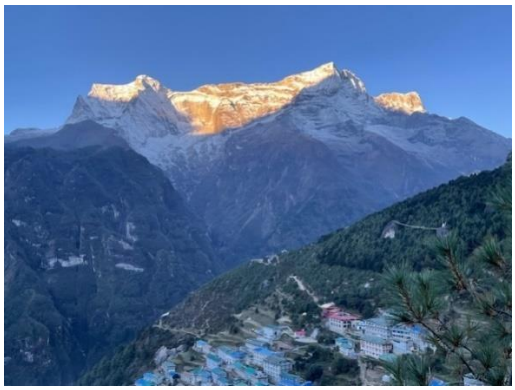
右向こうに Namche が近ずく

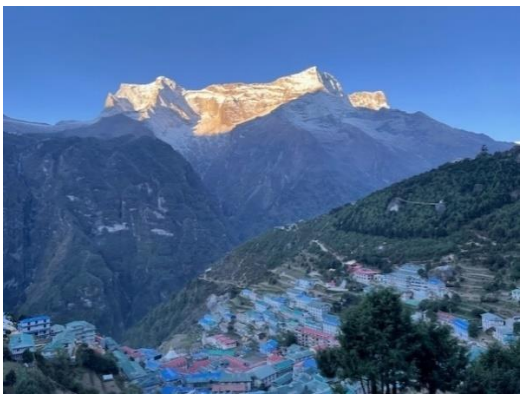
10 月 22 日　Trekking 11 日目

6:00 Namche Bazar 3,440m/Hotel Mountain View Lodge → Army View Point→ 7:30 Hotel

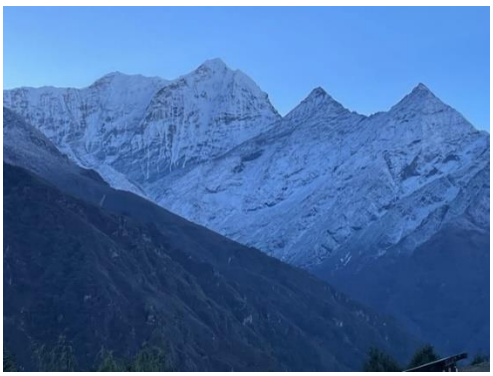
朝 6 時に出てナムチェのビューポイントに行き 20 年前にかみさんと見た景色をまた見た。エベレスト街道が当時のようには見えなかったのは、場所が少し違ったのだろうか。
初めてのネパール人エベレスト登頂者、テンジンシェルパの像があった。ただヒラリー像がな

いのはどうして、と？(Surprised)。



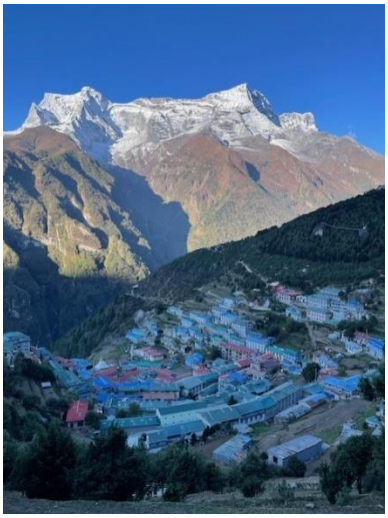


テンジンシェルパとエベレスト



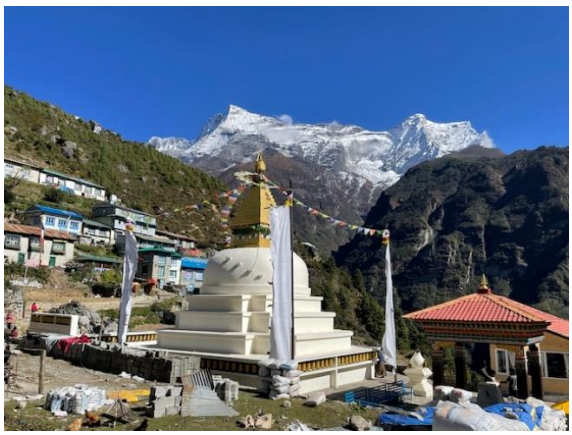
エベレストを背にヌルブさん

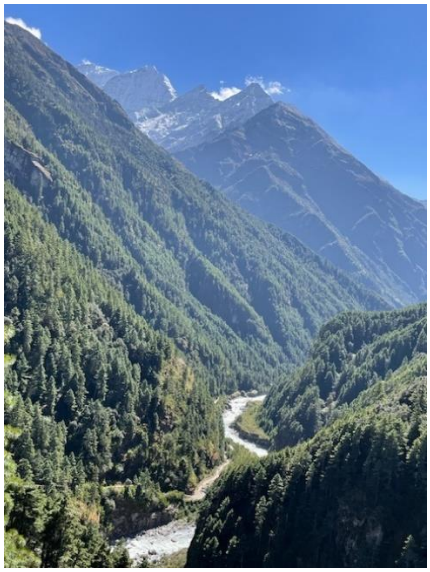
Namche Bazar 3,440m

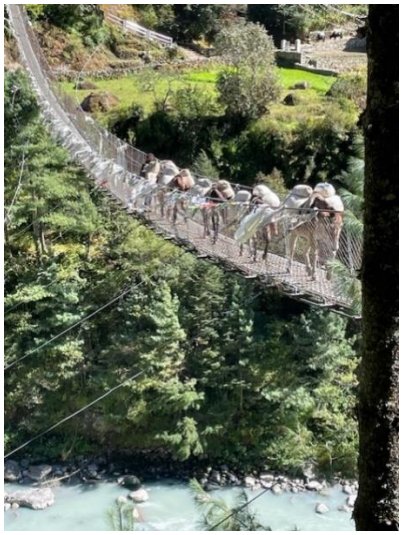


9:30 過ぎ Namche Bazar 3,440m 発 → 11:17 橋（馬の群れ）→ 12:15 Jorsale 2,730m 13:15 → Monjo 2,835m → 16:32 Phakding 2,610m

ナムチェを 9 時半に出て、今日は下りと気楽にいたら川沿いの土砂崩れもあり長い時間が掛かって、午後 4 時半にやっとファグディンの宿に着いた。20 年前のかみさんもよく歩いたなと思う。







馬の隊列が橋を渡る

Phakding ホテルの立派な広い食堂

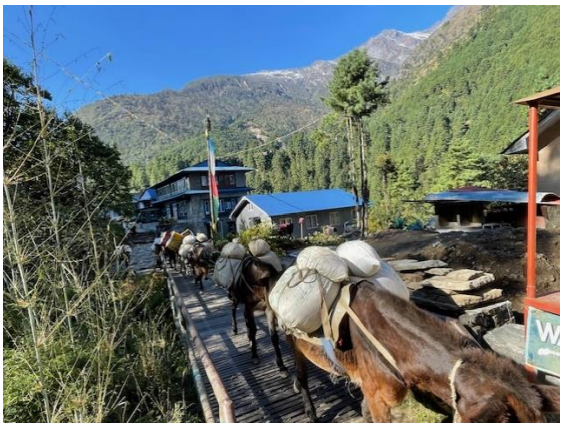
Phakding の Hotel は、川上の所は大規模で新しく建物は立派で賑わう。部屋は広いが質素だ。活発な韓国人のグループが目立った。

10 月 23 日　Trekking 12 日目

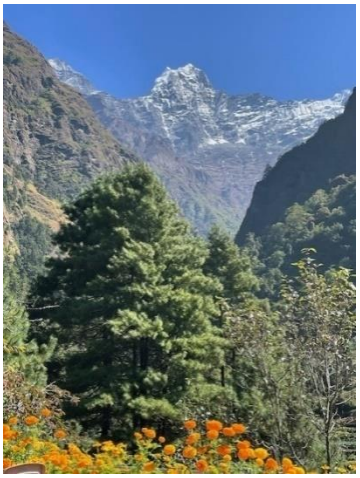
8:40 Phakding Hotel 2,610m → 10:17 Tadokoshi → 11:48 Cheplung 13:08 → 14:20 Lukla 2840m : Everest Plaza

ルクラに向かう。歩くのが最後の 12 日目。なかなか登りが多かった。

Phakding Hotel を朝出発

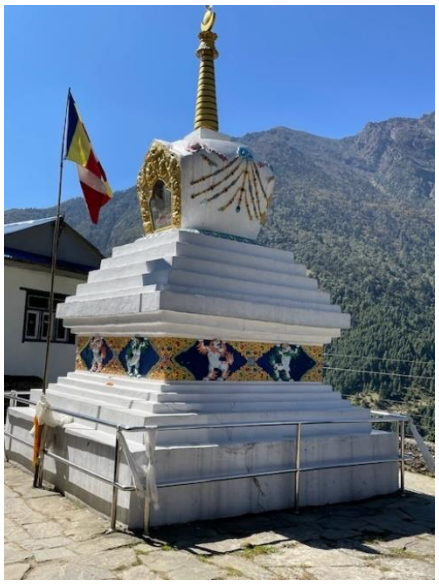


カッチャルが荷を運びあげる。



ルクラに近いところでヒマラヤと花

茶屋でみた子供の行水



ルクラに近ずく

しばらく登ってルクラに着いた。

10 月 24 日　Trekking 14 日目

Lukla 2840m　飛行機→ 9:20 頃 Ramechap 車（乗合）→15:00 頃 Kathmandu Hotel Stupa

ルクラから朝の飛行機でラメチャップに行き、それから乗合の車でカトマンズに長い時間かけて帰る。昨晩、ホテルで夕方 8 時過ぎに部屋で休んでいると、大音響が鳴り響いてきた。何かと思うと下の階の食堂でディスコを一時間強やるという。せっかくのネパールなのに西欧文明が入り込んでしまっている。私が文句を言った宿の主人が、この朝は空港で航空券をちゃんと取って飛行機に乗れるように立ち会ってくれていた。ナムチェのホテルの主人もお客の世話に来たのか空港で出会う。やっと最後に近い便の飛行機に乗れた。窓から 15 分ほどヒマラヤや大斜面の山村を眺められ、ビデオを撮れた。

ナムチェのホテルで私のフルートを部屋で聞いてくれたと言う 20 代のドイツ人カップルと

また空港で出会ったが、Ramechap でカトマンズ行きの乗合のハイエース車に乗るとまた一緒になった。車は大きな山域を越えて途中、ダルバートのランチ休憩となり、若い彼らから話をしましょうとお誘いがかかった。ミュンヘン郊外在住。ゴーキョに行ってきて、これからカトマンズに 1 ヶ月滞在するそうだ。ドイツにインターンシップで来ていたネパール人等 3 人の友人宅に泊り込み、カトマンズでのクライミングの講習会を受けるという。ネパール語も少し習っている。彼氏は仕事を変えるので時間があり、彼女は、介護福祉保安のような専門職の仕事なので 2 ヶ月休憩を取ってもまた復帰できるので大丈夫なのだと言う。なかなか日本人には取れない休暇の取り方だ。

一方、昨日ルクラで会った日本人は、大学卒業後、アルバイトしながらヒマラヤに 2 回来た、とか。日本人はなかなか若い人は長い休みは取れない。ヒマラヤ観光は、沢山訪れる欧米人によって成り立っているのだと思った。

途中の昼食時の稲刈り後の風景

カトマンズのボードナートに着いて

お陰様でヒマラヤから無事に帰還、3 時頃、カトマンズのボードナート（地元ではボーダという）のホテルに戻った。トリブーバン空港付近でハイエースからタクシーに乗り換えたタクシー運転手の話では、娘が 12 年生を卒業し（高卒共通試験に合格）、オーストラリアに留学に行くと言う。年間 250-350 万円くらい掛かるが、アルバイトしながら学べると言う。親父もタクシーの仕事で稼いで娘の将来の飛躍を夢見ている。(英語が下手な日本人にはなかなかできないことだ)

10 月 25 日

ダサインの祭りで皆、家族親戚と過ごす、ということで誰も私と会ってくれないとこぼしていたら、ガイドのヌルブさんが自宅に招いてくれると言う。それでお昼に、遠い郊外にバイクのタクシーの後部座席に乗って、広々したリングロードを突っ走って行った。バイクで 30 分走っても 380 円ほど。ダサインで家族、親戚 10 人くらい集まって狭い部屋でワイワイやっていた。カードなどで子供も大人も遊び。なにしろ、奥さん手作りのお酒、チャン、トゥンバーが信じ

られないほど美味しかった。醗酵が活きてそのまま、という感じ。ご飯も。素晴らしい。ナムチェのホテルで調理を 3 年やっていただけではない、料理のうまさがあるのだろう。そこにヌルブさんは惚れたのだろう。奥さんは学校に行っていないと言うが。

10 月 26 日

9:00 Satendra さん（シタール奏者）宅

Satendra さんから、お弟子さんのレッスンを見に来てくださいとのお誘いがあり、朝訪問した。お弟子さんのことを出来がいい、習うのが早いと先生は褒めるが、教え方が突然難しい演奏法をやらせようとしている感じがしてお弟子さんには大変そうだと心配になった。

お昼前にお父さんでシタール奏者の Tara Bir Singh Tuladhar さんのご自宅を Satendra さんと訪問した。結婚して東京に住む 80 歳になったシタール奏者のススマオマタさんと同期だと言う。いろんなお話を 1 時間以上伺った。Tara さんはまだカトマンズ大学でシタールを教えているそうだ。カトマンズ大学の音楽部は以前バクタプールにあり私も行ったことがある。カトマンズ移転前はそちらで教えていたそうだ。日本に 4－5 回、20－30 年前に訪問して教えたり演奏したとのことだ。素晴らしい文化交流の担い手だ。

Satendra さん宅に戻り遅いお昼をいただいた。夕方 5 時半に Junita さん宅に行くまで時間があり、とても眠かったので休ませてもらえるかお願いしたら快く了解してくれ、広いゲストルームのベッドで寝させてもらった。恐縮。

Satendra さんのお嬢さんがその後、アメリカの大学に留学することになった。留学費用も相当掛かるり、シタールでの収入もあまりなさそうなのにどうやって学費など工面するのか心配になるが、ネパール人はなんとかして子供を外国に行かせていて驚く。日本では考えられない外国志向だ。

5 時半過ぎに Junita さん宅に着いて、隣の家のマンジールさんに会う予定だったが、急に親

戚の所に行っているとのことで Junita さん宅でお話しして軽食のラーメンをいただき帰った。マンジールさんは家族で八王子に住んでいる。奥さんのバンダナシュレスタさんには八王子国際友好クラブで、お仕事の通訳による経験から、在日ネパール人の医療と法（警察沙汰など）の問題について講演してもらっている。その後、マンジルさんのネパールの両親の世話、5 つの子供の教育を考え、ネパールに戻ることに決められた。奥さんは通訳の仕事がネパールではできなくなるので残念だし生活も心配だが、夫のマンジルさんが叔母から水力発電会社のポストをもらえそうだということで決断することになったようだ。外国で働き長く済むのも難しいものだ。

10 月 27 日

12:00 Kirthipur の Music House の Raman さん（竹笛バーンスリ奏者）宅

ラーマンさんご夫婦は、招かれて 1 か月間 9 月に UK とスコットランドに演奏旅行に行っていられた。奥さんは学校の先生で踊りがうまく、何回か踊りを披露したそうだ。
私が日本の歌として、荒城の月、をフルートで演奏すると、とてもいい歌だと気に入ってくれ、ネパール式に音符を記録しようとしていた。そしてビデオ録画してくれ、その後、YouTube に載せてそのリンクを送ってくれた。有難いことだ。ラーマンさんも色々な曲をバーンスリで演奏してくれた。また彼の息子さんもバーンスリ奏者で、一曲演奏してくれた。息子さんは結婚したばかりで、ラーマンさんと同じ家に住んでいると言う。午後 2 時過ぎに奥さんが帰宅され、お昼ご飯を作ってごちそうしてくれた。そうして 12 時から 16 時まで私に付き合ってくれた。

有難いことだ。

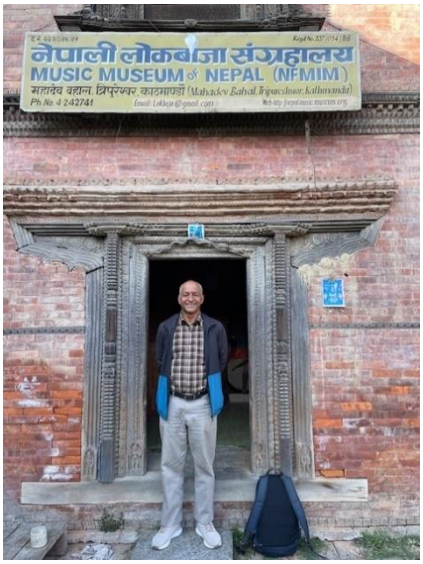
17:00 Hotel Stupa にトレッキング会社社長のラクパさんがバイクで迎えに来てくれ、ご自宅でご馳走してくださった。スロバキアのトレッキングのお客さんが多いそうで、スロバキアのウイスキーと肉で歓迎してくれた。私はそんなに強い酒は少しだけにして、ビールを所望した。前回聞かせられなかったフルート演奏をラクパさんの奥さんにも聞いていただいた。

10 月 28 日（土曜）

10:30 Toran Karki さん宅

ダサインの祭りで Toran Karki さん宅に親戚が 50 人ほども集まった。5 人兄弟の 4 世代でこんなに大勢になるのかと思った。広い庭に外部委託の料理人たちが料理、お酒、テーブルを用意していた。男女が別々のテーブルになっていて驚く。屋内では家長の Toran さんと奥さんが一人一人に額に真っ赤なティカを塗り、頭に何かかけ、祈りのプージャを捧げていた。健康で幸せでいられるように、よく勉強ができるように等と言って。そして小さな紙袋におこずかいを入れて渡していた。私もプージャをしてもらい、100 円程が入った袋をいただいた。

14:00 Music Musium Nepal/ Ram ji



10 月 29 日

11:00 Adhikari Sujata さん宅 / Bakapurt

東大に 1 年間、医療系の研究に来ていたと言うスジャータさんを訪問した。5 階建てほどの大きな家で、屋上、広いベランダがある。以前にバクタプールの近郊の山手の村の家から出てこの家を建てたという。まだ山の家で農作業をしているという。

ダサインは昨日で終わりだというのに、昼にたくさんの親戚が集まっていた。親戚のひとりは、今度は私の家に遊びに来なさいと一生懸命に言う。私はお昼をいただき、フルートを演奏させていただいた。Sujata さんのお兄さんは富山大の薬学部を卒業し、中外製薬？で開発業務に携わっていると言う。

18:00 Roshan Shrestha さん

　ネパールのバレーボール協会会長だという。長男はアメリカで大学院、次男はオーストラリアで大学生だという。夫婦で数か月前にオーストラリアの息子さんに会いに行っていた。私に、Toran 兄の家族、ウッタムの家族、だけでなく自分の家族でもあなたはある、なんて言われた。そしておいしいタカリ料理をごちそうしてくれた。2024 年の春には長男の大学院の卒業式があり夫婦で 2 か月滞在しに行くという。どうして日本人から見るとこんなに優雅なのだろう。心の余裕があるのだろう。

10 月 30 日

　8:30 Akshala 日本語学校 / Giri さん

　ガイドのヌルブさんが特定技能で日本に行きたいと言うことで連れて行った。

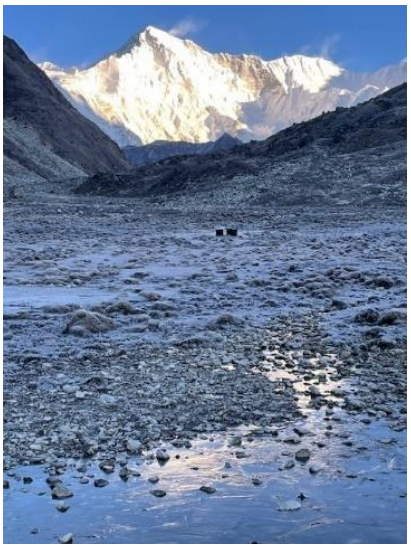
　10:00 Safala さん　ホテルの Dodoma 女主人とサマタスクールに行く。

　そして Safala さんとお昼を食べる。彼女のボランティア運営のアフタースクールに少し寄付をした。

インド航空にて午後の便で帰国の途についた。

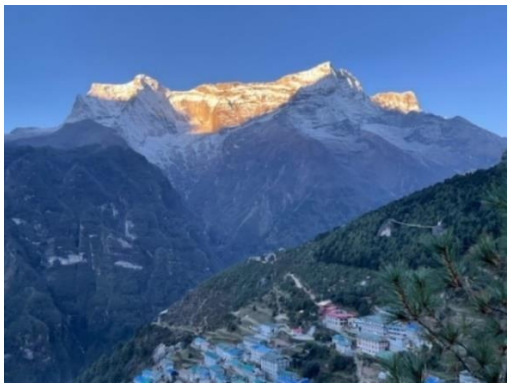
　10 月 30 日カトマンズ 15:40 発　ニューデリー経由　成田 31 日 9：45 着

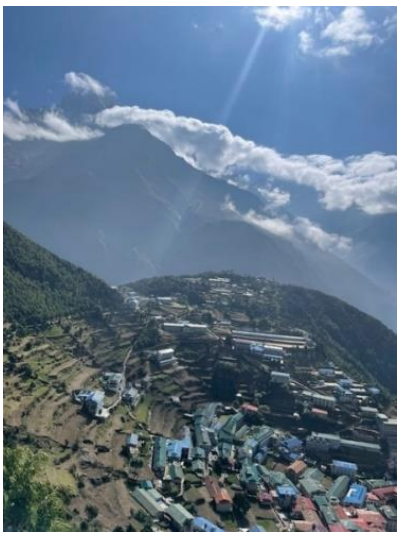
On the way to Gokyo-Ri 5,360m



Cho Oyu 8,188m

Amadablem 6,856m





Namche Bazaar 3440m